

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
		自己評価
目標 1		
【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する】 幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保證すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」（独自性のある教育プログラム）を提供する。		
		Ⅲ
戦略 1		
全学的な教学マネジメント体制を整備して、組織的で質の高い教育課程を全学、各学部・研究科、個別授業の各レベルで点検・改善しながら展開する。		
		Ⅲ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
①「令和 5 年度 自己点検・評価実施要領」を策定し、教育課程の点検・改善を行う。 ②全学及び各学位課程の教育改善過程に学生を参加させる仕組（仮称：学生教育委員会）を整備する。【⑥-1-②】	令和 5 年度自己点検・評価実施要領を策定し、教育課程の自己点検評価を実施した。 また、全学部において全学及び各学位課程の教育改善過程に学生を参加させる「学生教育改善委員会」を令和 6 年度から設置することを決定し、各学部において規程を制定した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
		自己評価
目標 1		
【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する】 幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保證すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」（独自性のある教育プログラム）を提供する。		Ⅲ
戦略 2		
教学 IR の推進により教育・学修成果の可視化を進め、IR データの分析結果を活用することによって学生の主体的学修や教員の指導力改善を支援する。		Ⅲ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
①学修者主体の教育に向けた教育改善の状況を的確に反映・可視化するため、授業評価アンケートの仕組みを抜本的に見直し、改善案を策定する。 【⑥-1-①】 ②大学院生のトランスファラブルスキルを可視化するシステムを導入する（令和 6 年度より稼働）。 ③授業改善・学生指導に係る全学 FD 研修計画を策定し、令和 5 年度後期より実施する。※2	大学院生の「島大トランスファラブルスキル」を定義し、各授業科目との関連付けを行い、レーダーチャート化（可視化）し、証明書として全大学院生に配布した。	

※2.経営状況の自己点検・評価結果に係る令和 5 年 1 月経営評議会の意見・助言を踏まえている項目

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
		自己評価
目標 1		
【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する】 幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保證すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」（独自性のある教育プログラム）を提供する。		
		Ⅲ
戦略 3		
SDGs の観点からカリキュラムを見直すと共に、授業科目と SDGs との関連付けを明確化しシラバスに記載するなど、授業内容の SDGs への関連について学生の理解を深めると共に、SDGs に対する意識を向上させる。		
		Ⅲ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
<p>①令和 6 年度開始の全学基礎教育においてユニバーサル科目群の必修科目として「SDGs 入門」を位置付けるよう規程等を整備する。【⑥-2-①、独自-1-①】</p> <p>②専門教育において、各学部に SDGs 関連科目となる学部共通科目・オムニバス科目を令和 5 年度に設計し、令和 6 年度よりカリキュラムに加える。【独自-1-①】</p> <p>③学内における SDGs に対する意識を向上させるため、SDGs に関する学生・教職員意識調査を実施し、無回答者を昨年度より減少させる（令和 4 年度無回答者：学生 70.9%、教職員 67.4%）。</p>	<p>令和 6 年度開始の全学基礎教育において、ユニバーサル科目群の必修科目として「SDGs 入門」を新規に開発するとともに、専門教育における SDGs 関連科目について、各学部で検討を行い、令和 6 年度からカリキュラムに加えた。</p> <p>SDGs に対する意識を向上させるため、教員と指導学生を対象に「各自が手掛ける研究内容と SDGs の各ゴール番号とどのように関わっているか」についてのディスカッションを実施するとともに、全 7 学部の教授会における FD 研修を実施した。また、グローバル月間において、SDGs をテーマにしたカードゲーム等の交流イベントを開催した。</p> <p>学生意識調査の質問項目「SDGs の関心度」で「関心がある」又は「とても関心がある」と回答した学生は 24.3%であった。</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
		自己評価
目標 1		
【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する】 幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保證すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」（独自性のある教育プログラム）を提供する。		
		Ⅲ
戦略 4		
全学共通教育において、幅広い学問領域をもつ総合大学としての特質を活かした学際的・国際的な教育内容を充実させ、学生の知的好奇心・社会的行動力の活性化を図ると共に、数理・データサイエンス、批判的思考力、デザイン力、アントレプレナーシップなど現代社会の求める新たなリテラシーを全学生が身につけられるよう全学的に STEAM 教育を推進する。		
		Ⅲ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実績 検証
	成果等	課題等
①令和 6 年度開始の全学基礎教育に「島大 STEAM 科目群」、「ユニバーサル科目群」、「地域創生科目群」、「教養育成科目群」を置くよう規程等を整備する。【①-2-①、⑥-2-①②、独自-1-①②】	令和 6 年度開始の全学基礎教育に「島大 STEAM 科目群」、「ユニバーサル科目群」、「地域創生科目群」、「教養育成科目群」を置くこととし、各学部の履修規則に規定した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
		自己評価
目標 1		
【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する】		
幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保證すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」（独自性のある教育プログラム）を提供する。		Ⅲ
戦略 5		
各学部・研究科において、それぞれの特色や強みを見える化すると共に、意欲ある学生を惹き付ける「ここにしかない学び」（独自性のある教育プログラム）を構築し、学生の知的探究心・社会的実践力の向上を図る。		Ⅲ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
①全学 DP・CP・AP（案）の枠組みに沿って、各学部の特色や強みを反映させた教育目標及び 3 ポリシーを再構築・公表するとともに、令和 6 年度入学者から適用できるよう規程等を整備する。【①-2-①、⑤-1-①②、⑥-1-①】	全学 DP・CP・AP を策定し、この枠組みに沿って各学部の 3 ポリシーについて改訂し、全学 DP・CP については令和 6 年度入学者から、全学 AP については令和 7 年度入学生から適用することにした。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
自己評価		
目標 1	Ⅲ	
【地域の総合大学として、その特性を活かした質の高い大学教育を提供する】 幅広い学問領域をもつ地域の総合大学として、その知的資源を最大限活用した多様で質の高い教育を保證すると共に、各学部・研究科の「ここにしかない学び」（独自性のある教育プログラム）を提供する。		
戦略 6	Ⅲ	
学部教育と大学院課程教育の接続を強めることにより、学部学生の大学院への進学意欲を高めると共に、大学院課程を見据えた学士課程教育を展開する。		
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題 / 今後の取組等
①大学院進学動向の分析結果（内部進学者数など数値目標の設定やその達成度を含む）を教学会議において報告するとともに、大学院進学を促すカリキュラム上の工夫・改善等について併せて報告する。※2、3	卒業者数に占める本学の学部生が大学院へ進学した割合（内部進学率）は、19.7%となった。（令和 4 年度 18.9%，令和 3 年度 19.2%	

※2.経営状況の自己点検・評価結果に係る令和 5 年 1 月経営評議会の意見・助言を踏まえている項目 ※3.認証評価の結果を踏まえている項目

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
		自己評価
目標 2		
【学びに向かう学生の個性や特性が活かせる多彩で柔軟な教育を提供する】 多様な学問的興味関心・文化・価値観、多彩な特技・特性など、さまざまな個性が集う学びの場となるよう、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進も含め多彩で柔軟な教育システムを提供する。		
		Ⅲ
戦略 1		
総合型選抜「へるん入試」を中心とした特別選抜の方法を改訂すると共に、当該入試による入学定員を拡充する。また入学者の「学びのタネ」の発芽・成長を促し、開花・結実へと向かうよう支援する柔軟な教育システムを構築する。		
		Ⅱ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
①特別選抜の改訂についてさらに具体化し、令和 7 年度入試の概要を 7 月、12 月に公表する。【⑤-1-①②、⑤-2-①②】 ②「私の“学びのタネ”は、今」をテーマに、へるん入試 1～3 期生までの集い（スプラウトルーム拡大版）を開催する。	へるん入試における定員、募集単位、入試方法の改定を行い、特別選抜による入学定員割合は令和 6 年度入試（令和 5 年度実施）37.4%となった。 オンライン上のバーチャルなスプラウトルームを活用し、へるん入試入学者の「学びのタネ」の追跡調査を実施し、その結果を高大接続シンポジウムで発表した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
		自己評価
目標 2		
【学びに向かう学生の個性や特性が活かせる多彩で柔軟な教育を提供する】 多様な学問的興味関心・文化・価値観、多彩な特技・特性など、さまざまな個性が集う学びの場となるよう、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進も含め多彩で柔軟な教育システムを提供する。		
		Ⅲ
戦略 2		
島根県教育委員会と連携し、大学進学を志す高校生を増加させるため高大接続事業を推進すると共に、地元大学での学びに高い意欲をもち、多様な「学びのタネ」を有する島根県出身の入学者を増加させる。		
		Ⅲ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
①地元大学への進学を中心に、大学進学への意欲を高めるため、島根県教育委員会と連携し「探究フェスタ」を開催する。特に理系学部への進学者増加を図るため、島根県教育委員会と連携し、高校 1 年生を対象とした「理系進学セミナー」を開催する。	島根県教育委員会との連携を深め、令和 6 年度へるん入試による県内出身者比率は、29.2%（令和 5 年度 28.2%、令和 4 年度 23.1%）となった。	
②へるん入試による県内からの入学人数の目標を 85 人とする（令和 3 年度 60 人、令和 4 年度 67 人、令和 5 年度 81 人）。		

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
		自己評価
目標 2		
【学びに向かう学生の個性や特性が活かせる多彩で柔軟な教育を提供する】 多様な学問的興味関心・文化・価値観、多彩な特技・特性など、さまざまな個性が集う学びの場となるよう、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進も含め多彩で柔軟な教育システムを提供する。		
		Ⅲ
戦略 3		
自己の特質を活かそうとする学生の意欲的な学びを支援するため、主専攻（分野）・副専攻（分野）によるクロス教育、学部の壁を超えた副専攻プログラム、オンライン授業等の活用によるダブルメジャー、メジャー・マイナープログラムなど、幅広い選択肢を持った柔軟な教育システムを構築する。		
		Ⅲ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
①令和 6 年度入学者より新たに 5 種類の教育プログラム（10 単位、20 単位、30 単位）からなる「島大クロス教育」を開始するため、規程等を整備する。【④-2-①②】	令和 6 年度より全学基礎教育及び専門教育に加え、新たに 5 種類の教育プログラムからなる「島大クロス教育」を開始するため、規則等を整備した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
		自己評価
目標 2		
【学びに向かう学生の個性や特性が活かせる多彩で柔軟な教育を提供する】 多様な学問的興味関心・文化・価値観、多彩な特技・特性など、さまざまな個性が集う学びの場となるよう、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進も含め多彩で柔軟な教育システムを提供する。		Ⅲ
戦略 4		
学びの多様性を高めるため教育 DX を推進し、国内外の大学・高等専門学校と連携して、リモート教育を活用した単位互換等の連携プログラムを開発・実施する。		Ⅲ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
①令和 6 年度に開始予定の新たな全学基礎教育及び専門教育の中で教育 DX を推進するため、関連する FD 研修を 2 回実施する（教育ビジョン目標 1-戦略 2-実行計画③に含める）。	リモート教育を活用した連携プログラムを 14 プログラム実施するとともに、医学部においてはハワイ大学と連携教育プログラムを実施した。	
②リモート教育を活用した連携プログラムの導入候補を選定し、必要な連携協定等を結んで実施準備体制を整える【⑥-2-②】。	また、国内外の大学・高等専門学校との単位互換等の連携は、7 件継続して実施した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
		自己評価
目標 2		
【学びに向かう学生の個性や特性が活かせる多彩で柔軟な教育を提供する】 多様な学問的興味関心・文化・価値観、多彩な特技・特性など、さまざまな個性が集う学びの場となるよう、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進も含め多彩で柔軟な教育システムを提供する。		
		Ⅲ
戦略 5		
バーチャル・キャンパスとして「もう一つの島根大学」を立ち上げ、定評や特色のある「名物講義」、英語による講座、リカレント教育に活用できる講座等の各種講座を制作してホームページ上で公開し、学生だけではなく地域のステークホルダーにも質の高い大学教育を提供する。		
		Ⅲ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
①令和 4 年度に策定したバーチャル・キャンパス（もう一つの島根大学）案を教育改善小委員会に提示し、令和 7 年度にスタートできるよう同小委員会に WG を設け具体的な検討を開始する。	教育改善委員会の下に WG を設け検討を開始した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
		自己評価
目標 3		
【未来社会を先導する知のプロフェッショナルを育成する体系的な大学院教育を提供する】 高度な教育・研究を通じて、Society 5.0 を実現し、知識集約型社会を先導する研究者、高度専門職業人や高度で知的な素養のある人材を育成するため、3つのポリシーに基づく高度で体系的な学びを提供する。		
		Ⅱ
戦略 1		
これからの時代の要請に応えられる高度な学術的専門性を身につけ、国内外の産業界の需要に応えられる高度専門職業人を育成するため、大学院のカリキュラムを学位プログラムの視点から点検・再構築する。		
		Ⅲ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
①各研究科において三つの方針の再検討を実施し、再構築に向けた計画（ロードマップ）を作成する。【⑦-1-①】 ②「島根大学教学マネジメント方針」に基づき、全研究科で教学マネジメント体制が構築されていることが明文化されている。【⑦-1-②】	各研究科の三つの方針の再検討について、教学マネジメント委員会において、各研究科における検討体制、計画を決定した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
		自己評価
目標 3		
【未来社会を先導する知のプロフェッショナルを育成する体系的な大学院教育を提供する】 高度な教育・研究を通じて、Society 5.0 を実現し、知識集約型社会を先導する研究者、高度専門職業人や高度で知的な素養のある人材を育成するため、3つのポリシーに基づく高度で体系的な学びを提供する。		
		Ⅱ
戦略 2		
地域社会の発展に資する実践的能力を備えた高度専門職業人を育成し、学生のキャリアパスの多様化を図るため、産業界との共同授業、実務家教員による授業、PBL 型の授業、多様なインターシップ体験などを充実させ、大学院での学びの社会実装化を一層推進する。		
		Ⅲ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実績 検証
	成果等	課題等
<p>①人間社会科学研究科（臨床心理学専攻を除く）及び自然科学研究科における当該戦略に記載された授業科目の履修者目標値（令和 3 年度実績の 1.5 倍以上）を再度確認し、到達状況（履修者数）を教学会議において報告する。【⑦-2-①】</p> <p>②人間社会科学研究科（臨床心理学専攻を除く）及び自然科学研究科は、修士論文等のテーマに係る研究成果発表会等の状況及び地域との連携教育の課題と成果について、教学会議において報告する。【⑦-2-②】</p>	<p>人間社会科学研究科及び自然科学研究科において、修士論文のテーマに係る研究成果発表会を地域・産業界等の参画を得て実施した。</p> <p>大学院教育における社会実装に資する科目に係る履修者数は以下のとおりであり、1.3 倍に増加した。</p> <p>○PBL 科目 令和 3 年度：10 科目 22 名 令和 4 年度：11 科目 28 名 令和 5 年度：11 科目 34 名</p> <p>○産業界との協働科目 令和 3 年度：5 科目 7 名 令和 4 年度：5 科目 8 名 令和 5 年度：5 科目 5 名</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
		自己評価
目標 3		
【未来社会を先導する知のプロフェッショナルを育成する体系的な大学院教育を提供する】 高度な教育・研究を通じて、Society 5.0 を実現し、知識集約型社会を先導する研究者、高度専門職業人や高度で知的な素養のある人材を育成するため、3つのポリシーに基づく高度で体系的な学びを提供する。		
		II
戦略 3		
国際性を涵養するため、海外留学・研修、国際会議における研究発表やダブルディグリー等の多様なプログラムを提供する。		
		II
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
①国際学会への参加や研究発表、並びに海外留学・研修の機会(オンラインによる参加を含む)を計画し、全大学院生の 20%に海外体験をさせる。 【⑫-1-①】	海外留学・研修又は国際会議で研究発表をした大学院生は 37 名となり、全大学院生の 5.2%であった。(令和 4 年度 3.4%, 令和 3 年度 4%)	
②医学系研究科は寧夏医科大学と、自然科学研究科は東北師範大学とのダブルディグリープログラムにおいて令和 6 年度履修する留学生を確保するとともに、自然科学研究科については、令和 5 年度前期にナレスワン大学(タイ)、キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)とのダブルディグリープログラムを新規に設置し、7名の履修者を確保する。【⑫-1-②】	令和 5 年度における本学のダブルディグリープログラム履修留学生は 2 名であった。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
		自己評価
目標 3		
【未来社会を先導する知のプロフェッショナルを育成する体系的な大学院教育を提供する】 高度な教育・研究を通じて、Society 5.0 を実現し、知識集約型社会を先導する研究者、高度専門職業人や高度で知的な素養のある人材を育成するため、3つのポリシーに基づく高度で体系的な学びを提供する。		Ⅱ
戦略 4		
オンラインによる遠隔授業等も活用し、実践的な履修証明プログラムによる高度専門職業人材に対応するリカレント教育を展開する。		Ⅱ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
①既存の履修証明プログラムの履修者数を増やすとともに、各研究科において社会人を対象とした実践的な履修プログラム(オンデマンド)案を新たに作成する。	研究科における社会人リカレントのための履修証明プログラムとして、4つのプログラムを実施し、合計 125 名が履修した。(令和 4 年度 156 名、令和 3 年度 36 名)	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
		自己評価
目標 4		
【国際感覚とコミュニケーションスキルを育成するグローバル教育を提供する】 コロナ禍を経た新たな国際交流の在り方を踏まえ、教育 DX の推進と共に学内のグローバル化を促し、国際色豊かなキャンパスを構築する。		II
戦略 1		
共通教育及び専門教育を通じて外国語教育を強化すると共に、英語による授業科目の増加、英語による日常的コミュニケーション環境の整備、外国人教員の増加など、学内教育環境のグローバル化を推進する。		III
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
①「外国語教育のグランドデザイン」において語学力・国際力の強化・改善を示す目標値を設定した上で、新たな全学基礎教育（ユニバーサル科目群）を構築し、係る規程等を整備する。	令和 6 年度からの新たな学部教育（ユニバーサル科目群）を位置付け、各学部の履修規則に規定した。	
②松江キャンパスに 5 か所の日常的な留学生との交流スペース（グローバル・コモنز）を設け、学内環境のグローバル化を推進する。※4	松江キャンパスに 5 か所の日常的な留学生との交流スペース（グローバル・コモنز）を設置した。	
③令和 4 年度末 35 名を踏まえ、全学の外国人教員の割合（5.2%）を下回る学部は、令和 8 年度までの目標値を設定し、全学として令和 5 年度末までに 40 名の外国人教員を配置する。※4	外国人教員数 45 名（令和 5 年度目標値 40 名）	

※4.第 3 期中期目標期間（6 年目終了時）の法人評価結果を踏まえている項目

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン	
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。	
	自己評価
目標 4 【国際感覚とコミュニケーションスキルを育成するグローバル教育を提供する】 コロナ禍を経た新たな国際交流の在り方を踏まえ、教育 DX の推進と共に学内のグローバル化を促し、国際色豊かなキャンパスを構築する。	II
戦略 2 教育 DX の推進による海外大学との遠隔授業の受講、オンラインカフェや COIL 等による協定校とのバーチャルな学生交流等と併せ、留学生と日本人学生の直接的な交流機会の拡充にも努め、海外留学・研修の意識を高め、海外に派遣する学生を増加させる。	II
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証
	成果等 課題等
<p>①オックスフォード大学教員による遠隔授業を 5 科目開講する。</p> <p>②外国語教育センターは、継続的に、北京大学教員と連携したオンライン授業（2 科目）やコスタリカ及び台湾の大学と連携した独自の COIL 授業を実施し、各授業 10 名以上の受講生を確保する。【⑫-1-①】</p> <p>③国際センターは、全学の海外研修プログラムを SDGs や英語高度化プログラム等、目的別・派遣国別に整理し、各学部及び国際センターは計 10 件以上の海外研修(オンライン海外研修を含む)を実施する。また、その他の協定校への海外派遣や国際学会における発表等の増加と併せ、439 名（全学生の 7.5%）の日本人学生を海外に派遣する。【⑫-1-①】</p> <p>④国際センターは、外国語教育センター、各学部・研究科と連携して留学ウィーク及びグローバル月間を開催し、授業の一部とタイアップできるイベント等を立案して令和 4 年度実績を上回る学生(2,000 名以上)を参加させる【⑫-1-①】※4</p> <p>⑤国際センター、外国語教育センター及び関係学部は、令和 5 年度からスタートした帝京大学の研修プログラムを軌道に乗せるとともに、令和 5 年度前期中に欧米を中心とした短期(交換)留学生用学習プログラムを策定し、学部留学生 134 名、大学院留学生 127 名を受け入れる。【⑫-1-②】※4</p> <p>⑥「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ(第二次提言)」を踏まえ、グローバル化推進本部は、(1) コロナ後の留学生派遣・受入れ、(2) 留学生の卒業後の活躍に向けた環境整備、(3) 教育の国際化の推進の 3 項目について、同提言の 2033 年目標と照らして本学に即した具体的方策を整理し、第 4 期中期目標期間中に達成する国際戦略を策定する。</p>	<p>教育 DX を推進し、オックスフォード大学教員による遠隔授業を 4 科目開講した。</p> <p>北京大学教員と連携したオンライン授業を 1 科目実施するとともに、コスタリカ及び台湾の大学とそれぞれ連携した COIL 授業を実施した他、香港大学教員によるオンライン授業を実施した。</p> <p>留学ウィークでは、留学説明会や報告会等、30 件の各種イベント等を行い、全体で 786 名の参加があった。また、グローバル月間では、英語スピーチコンテスト、短期研修報告会、留学生交流会などの各種イベントを行い、全体で 3,300 名の参加があった。</p> <p>合計 295 名（全学生の 4.9%）の日本人学生を海外派遣した。</p>

※4.第 3 期中期目標期間（6 年目終了時）の法人評価結果を踏まえている項目

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

教育ビジョン		
専門分野を基盤とする知、広く世界と未来を俯瞰する視野や感性、そして社会のニーズに応えるスキルとデザイン力をもって、自ら主体的に考え、行動することにより新たな価値を創造し、持続可能で多様性に富んだ知識集約型社会を牽引する人材を育成する。		
		自己評価
目標 4		
【国際感覚とコミュニケーションスキルを育成するグローバル教育を提供する】 コロナ禍を経た新たな国際交流の在り方を踏まえ、教育 DX の推進と共に学内のグローバル化を促し、国際色豊かなキャンパスを構築する。		
		II
戦略 3		
海外の協定大学との遠隔授業を活用し、学士課程、大学院課程におけるダブルディグリープログラム、または、ジョイントディグリープログラムを新たに設置する。		
		III
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
	①自然科学研究科は、令和 5 年度中にナレスワン大学(タイ) 並びにキングモンクット工科大学トンプリ校(タイ)とのダブルディグリープログラムを新規に設置し、令和 6 年度に学生募集を開始する。また、人間社会科学科研究科は、今後 3 年以内に設置可能なダブルディグリープログラムを計画する。【⑫-1-③】	ナレスワン大学(タイ) 及びキングモンクット工科大学(タイ)とのダブルディグリープログラムについて、審議が終了した。 また、サンパウロ大学との間でダブルディグリープログラム設置に向けた協議を行った。